

西郷団地まちづくりニュース

第
1
号

～団地活性化に向けた**取組**がスタートしました～

平成31年2月4日発行

市では、若者から高齢者まで多様な世代が暮らす活力ある団地づくりを目指して、30年度からの約3年間で、**ワークショップ形式**により具体的な取組みについて検討を進めてまいります。

このワークショップでの検討過程を広く地域の皆様に知っていただくため、まちづくりニュースを作成しました。

ワークショップとは、地域住民等による話し合いを通して、自由なコミュニケーションを行いながら、何かを作り上げていく手法の一つです

もくじ

1. 「団地の活性化」って具体的にどう進めるの？
2. そもそも「団地の活性化」とは？
3. 第1回はどんなことをしたの？
4. 次回のお知らせ

1. 「団地の活性化」って具体的にどう進めるの？

このワークショップでは、「西郷団地」の魅力や困っていることなどについて、地域の方々と意見交換を行います。

その中から出てきた、団地の魅力や課題等を踏まえ、「もっと伸ばしていきたいところ」や「改善したいところ」を共有します。また、それを実現するために自分達で「できること・やってみたいこと」について話し合い、団地の活性化に向けた「具体的な取組み」について検討していきます。

■検討スケジュール（ワークショップ等）

【第1回の様子】



ワークショップに参加されていない方からもご意見を聞くため、**住民アンケート**等も実施します

平成30年度

平成31年度

平成32年度

第1回

平成31年1月22日（火）
18時30分～20時20分
「大学生と西郷団地の未来について考える」

平成31年1月～2月
「住宅団地の活性化」に関する住民アンケート調査の実施（無作為抽出）

第2回

平成31年3月13日（水）
18時30分～20時30分
「団地の魅力や問題について話し合おう！」

5回程度

・取組みの方向性の検討
・課題の抽出

2回程度

・具体的な取組みの検討

2. そもそも「団地の活性化」とは？（国土交通省による取組みイメージ）

団地の問題

人口減少や高齢化等により問題が発生

- ・人口が減っている。進学等により子供が団地から転出している。
- ・高齢者が増えている。
- ・空き家が増えてきた。
- ・様々な店舗が減っている。
- ・起伏や段差が多く移動が大変。
- ・車がないとスーパーにも行きづらい。

団地の魅力

一方で、団地には魅力的な資源がある

- ・緑や自然が多くて環境が良い。
- ・長年住んでいて近所とも交流が深い。
- ・日常生活用品が団地内で揃い、バス便があって中心部にも近い。
- ・賃貸住宅等には子育て世帯の転入もみられる。

「団地の活性化」のためには、

- ・高齢者になった居住者が、健康に住み続けることのできる「団地」
- ・空き家等の住宅に、若者や子育て世帯が円滑に住み替えることのできる「団地」を目指して「団地」の魅力向上を図ることが重要です。

そこで、「団地の活性化」のために地域の方々とワークショップにて検討を行い具体化な取組みにつなげていきたいと考えています。

■取組みイメージ（例示）



3. 第1回はどんなことをしたの？

第1回では、鹿児島大学建築学専攻の小山先生と研究室の学生から、住宅団地全般の課題や西郷団地の魅力についての調査結果を発表していただきました。その後、自分が知っている西郷団地の魅力や、団地内で困っていることなどについて、意見交換を行いました。

■ 団地の魅力と課題 – 団地を住みこなすために –

(鹿児島大学建築学専攻 小山雄資 准教授)

団地は、日本の成長期に、子育て期の「家族」の暮らしを前提として形成されました。

当時の整備方針は「分離する(分ける)」こと。職場や工場等と住宅を分けることによって、住環境をまもるねらいがありました。

団地の中央には、銀行やクリニック、スーパーなどがまとまって立地し、学校や公園など基本的なインフラが整っています。

一方で、団地は今後20年で急激に高齢化すると予測され、高齢者にとって暮らしにくい部分が出てきています。

変化(高齢化)に対応しつつ、団地に住み続けられるようにするためには、「**団地**」を「**まち**」にすることが重要です。

持続する「**まち**」の条件のひとつは、多世代(子どもからお年寄り)や多用途(保育所、高齢者向け施設等)が「**まざっている**」こと。

まち(団地)を知り、関係者がお互いを知る、まずは、そのための「**場づくり**」が大切です。



小山先生による講演



まち歩き風景(平成30年8月)

■ 郊外住宅地におけるバス停の立地と空間構成に関する研究 –鹿児島市における大規模住宅団地を対象として– (鹿児島大学建築学科4年 柚木崎さん)

バス停の立地は店舗と関係性があります。一方で、屋根やイスなどがないバス停も多く、空間としてバス停の魅力があまり感じられません。

バス停が休憩所のような空間になれば、さらに快適になり待つことが苦にならなくなります。

バス停が他のいくつかの要素と共に機能することが地域活性化のために必要です。



西陵中前のバス停

■ 団地の魅力や問題について話し合おう！

これからのワークショップに向けて、「団地の住みやすさ」について意見交換したところ、様々な意見が出ました。

次回のワークショップでは、今回出たキーワードをもとに、団地の魅力や問題について掘り下げて意見交換を行います。

「団地で住みやすいと感じていることや、不安・不満を感じていることはありますか？」という問いかけに対して、意見交換を行いました

■ ワークショップで出し合った皆さんのご意見（ご意見を多く頂いたものを抜粋しています）

青：住みやすいと感じている点

<交通>

- ・公共交通（バス）がある
- ・交通の便が良い
- ・車があれば街中へも移動しやすい
- ・鹿児島中央駅や高速道路に近い
- ・高速道路に乗りやすく空港方面への利便性が高い
- ・道路が広い

<コミュニティ>

- ・近所付き合いが良い
- ・挨拶も良く出来る
- ・団地内の結び付きが良い
- ・地域の方々が協力的
- ・町内会の運営が良い
- ・団地に帰ってくる人が増え、子どもが増加傾向

<環境(静か、公園、眺望)>

- ・住宅地が静かである
- ・とても静かで明るい街並み
- ・公園が充実している
- ・公園掃除など地域で協力して環境整備をしている
- ・桜島がよく見える

<水道>

- ・水道水が美味しい
- ・地下水で水の質が良い

<団地内の利便性>

- ・幼稚園や保育園、小・中学校があって子育てしやすい
- ・病院、スーパー、銀行、郵便局などが揃っている

<お店・施設>

- ・飲食店が少ない
- ・電気屋が無い
- ・交通アクセスがいい反面団地内のお店が衰退
- ・集まる場所がない
- ・病院が少ない
- ・子供の遊び場が少ない

<道路・坂道>

- ・道路が狭く、坂道が多い
- ・歩道が斜めになっている
- ・高齢になると歩いて移動できない
- ・メイン通り以外は歩くのに不向き

<交通>

- ・バスしか公共交通機関がない
- ・バス便数が少ない
- ・団地内移動の公共交通がない
- ・車がないと不便を感じる
- ・高齢になると車の運転が不安
- ・朝・夕、渋滞する
- ・車を停める場所がない

<コミュニティ>

- ・町内会への参加率が下がっている
- ・町内会の活動に高齢者が多くなった
- ・井戸端会議の場が少なくなった

<少子高齢化>

- ・高齢化を心配している、子どもの数が少なくなった
- ・高齢者が多く災害時などいざという時に動けるか心配
- ・家の垣根や庭の草取りが年々きつくなる

赤：不安・不満を感じている点

4. 次回のお知らせ

【第2回ワークショップ】 団地の魅力や問題について話し合おう！

日時：平成31年3月13日（水）18時30分～20時30分 場所：西陵校区公民館

皆様のご参加、ご意見お待ちしております！

- 鹿児島市 都市計画課（担当：井上、諏訪田）
連絡先：099-216-1378 FAX：099-216-1398
メール：toshikeikaku@city.kagoshima.lg.jp
- ランドブレイン株式会社 鹿児島事務所（業務受託事業者）
連絡先：099-210-9091（担当：大脇、岩切）